

アジア船主フォーラムによるシップ・リサイクルに関するインド訪問について

アジア船主フォーラム（ASF）*注¹は、2015年10月14日から16日の間、インド グジャラート州アラン地区を訪問し、現地リサイクルヤードを視察するとともに、インド解撤協会（SRIA：Ship Recycling Industries Association）・グジャラート州政府との間で環境適合型シップ・リサイクルについて意見交換を実施しました。

ASFからは、シップ・リサイクル委員会委員長の代理として Bob Hsu 台湾船協事務局長および Harry Shin ASF 事務局長以下、日本船主協会を筆頭にメンバー諸国船主協会からの参加者をあわせて9名からなる訪問団を派遣し、インド・アラン地区にある先日 NK（日本海事協会）がシップ・リサイクルに関する香港条約適合証書を発行（NK 認証）した2ヤードを含む6つのヤードを順次視察。その中にはNK 認証発行申請中のヤードや当該認証取得を目指してヤード施設・作業手順改善を図るヤードがあり、現地関係者の改善に向けた強い意欲と改善の実態を確認いたしました。アラン地区でのリサイクルヤードの改善の動きが国際的に正当な評価を得る上でNK 認証が有効であること、香港条約早期批准の重要性を訴え、加えてアラン地区で更に多くのヤードで改善活動を加速させるよう、ASF から SRIA およびグジャラート州政府へ要望いたしました。

詳細は、添付のプレスリリース（英文）をご参照ください。ご参考までに仮和訳も添付します。ASFとしては、2014年の大連シップリサイクルヤード訪問に続く現地視察を通しての関係者間の意見交換であり、複数国での安全・環境適合型のシップリサイクルヤードの確保がなされるよう、引き続き関係者に積極的に働きかけてまいります。

なお、2012年および2015年の2度にわたって単独でインド・アラン地区へ訪問団を派遣し環境適合型リサイクルヤードへの改善活動を促してきた当協会の訪問が基礎となり今般の ASF 訪問につながったとして、SRIA およびグジャラート州政府から謝意が示されました。

注1：ASF（Asian Shipowners' Forum）は、アジア地域の船主間の相互信頼と協力関係の育成を目的に、1992年に日本船主協会の提唱により設立。アジアの8国／地域（豪州、中国、香港、インド、日本、韓国、台湾、アセアン（ブルネイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム））の船主協会により構成されている。

<本件に関する問い合わせ先>

一般社団法人 日本船主協会 海務部 斎藤 光明

Tel : 03-3264-7177 e-mail : mar-div@jsanet.or.jp

総務部 高橋 裕之

Tel : 03-3264-7181 e-mail : pub-office@jsanet.or.jp



ASIAN SHIPOWNERS' FORUM

10 Anson Road
#16-18, International Plaza,
Singapore 079903
Tel: (65) 6325 4737 Fax: (65) 6325 4451
General Email: information@asf.com.sg
Website: www.asianshipowners.org

16 October 2015

The ASF notices the improvements of Ship Recycling Facilities in Alang, India

The Asian Shipowners' Forum (ASF) visited ship recycling yards in Alang, India this week and took the opportunity to hold dialogue with SRIA, following the first meeting in March this year in Singapore, to exchange views on future actions to be jointly implemented. Purpose of this visit was to get the first-hand look at current status of Indian ship recycling facilities and to confirm actions that should be taken next for achieving green ship recycling.

Throughout the visit, the ASF was convinced that advanced recyclers, some of which had recently obtained Hong Kong Convention Statements of Compliance issued by ClassNK, operated their services with close attention given to ensure the safety of workers and environmental protection in accordance with the Hong Kong Convention. Delegates also recognised how momentum is gradually and steadily building up, following certification of facilities at some yards.

The ASF observed concerned parties are successfully upgrading operational safety and environmental friendly procedures of ship recycling in India. Yards were found to be open-minded to stakeholders' suggestions, including training courses set by Gujarat Maritime Board, yard operators and labor unions. The ASF emphasized on these positive developments for further upgrading the facilities and operations after various countries showed positive support on India's behalf in recent years.

The ASF met Mr Atul Sharma, Deputy General Manager (Environment), GMB and discussed ASF evaluation of Indian recycling yards, explaining its ship recycling policy. These talks were considered highly successful as GMB was receptive to hear the ASF views and to continue pursuing efforts so that correct status of Indian recycling yards are more globally recognized.

Mr Bob Hsu, Secretary of the ASF's Ship Recycling Committee (SRC), on behalf of Dr Frank Lu, the SRC Chairman, emphasised *"Seeing is believing!! Improvements of ClassNK's certified ship recycling yards are particularly recognised and surely enhance our confidence to voice to the public that assessments of each ship recycling facility should be implemented individually without any prejudice. Look at India."* He further added *"the ASF repeatedly emphasized on these occasions necessity of early entry into force of the Hong Kong Convention"*

Bearing in mind the fact that current unfavorable image of ship recycling practices in

India remains as a stereotype, the ASF agreed with SRIA that all necessary actions will be jointly taken to dispel that image so that the international community accurately recognises the current status of developments in India.

In order to ensure availability of a sustainable ship recycling capacity that assure environmentally sound and safe ship recycling manner in response to high global demand of recycling for more than a decade, ASF continues to visit recycling yards as well as holding dialogues with recyclers in major recycling countries.

For media enquiries, kindly contact:

Mr. Harry Shin

Secretary General

Asian Shipowners' Forum (ASF)

Tel : (+65) 6325 4737
Email : harryshin@asf.com.sg
Website : www.asianshipowners.org

The Asian Shipowners' Forum (ASF) is a voluntary organisation of the shipowners' associations of Australia, China, Chinese Taipei, Hong Kong, India, Japan, Korea and the Federation of ASEAN Shipowners' Associations comprising shipping associations of ASEAN countries.

The aim of the ASF is to promote the interests of the Asian shipowning industries.

It has been estimated that ASF owners and managers control and operate nearly 50% of the world's cargo carrying fleet.



ASIAN SHIPOWNERS' FORUM

10 Anson Road
#16-18, International Plaza,
Singapore 079903
Tel: (65) 6325 4737 Fax: (65) 6325 4451
General Email: information@asf.com.sg
Website: www.asianshipowners.org

16 October 2015

(仮和訳)

ASF はインド・アラン地区の船舶リサイクル施設を訪問し 改善を確認

ASF は今週、インド・アラン地区にある船舶リサイクルヤードを訪問し、SRIA（インド解撤協会）と本年 3 月シンガポールでの会合に続き 2 回目の会合を開催し、改善に向けたさらなる行動に関して意見交換を行った。今般の現地訪問の目的は、インドのリサイクル施設の現状を直接視察するとともに、環境にやさしいリサイクルを達成するために次にとるべき行動について確認することであった。

訪問を通じ、NK（日本海事協会）による香港条約への適合証書の発給を最近受けた複数のヤードを筆頭に先進リサイクル事業者による運営と位置づけられるヤードが、同条約に従い、労働者の安全および環境保護を確保するために細心の注意を払いながら業務を運営していたことを ASF 訪問団は確認した。また、NK 等の第三者機関の香港条約適合証明取得に続こうとする機運が徐々にしかし確実に盛り上がっていることを認識した。

ASF は、インドでの船舶リサイクルにおいて、関係者が安全で環境にやさしい作業をなさしめる改善をうまく進めているかを観察した。GMB（グジャラード州海事局）、解撤事業者および労働組合により始められた訓練事例も含めて、関係者のヤード運営上の助言が忌憚なく受け止められていることがわかった。インドでの船舶リサイクルに関して諸国による近年の積極的な改善支援の後、さらに施設および運営の改善がなされている事実を ASF として強調しておく。

ASF は、GMB を訪問し、船舶リサイクル^(*1)に関する ASF としての方針を説明し、インドの船舶リサイクルヤードに対する ASF の評価について議論した。GMB は ASF の意見に真摯に耳を傾け、インドの船舶リサイクルヤードの現状を正しく世界に伝播させ認知させる努力を継続していくことに同意を示したことからこの会談が非常に有益であったと言える。

ASF シップリサイクル委員会委員長の Dr Frank Lu（台湾船主協会会長・陽明海運会長）の代理として参加した同委員会事務局の Bob Hsu は、「百聞は一見にしかず。NK 認証を受けたリサイクルヤードの改善は出色である。船舶リサイクル施設ごとに、評価が予見や偏見なくなされるべきと世界に向けて ASF が発した声への自信を強めるものである。まずはインドを見てみよ。」と強調した。さらに、「ASF は香港条約の早期発効の必要性を繰り返し強調したい」と付け加えた。

インドの解撤について定型化した好ましくないイメージが拭い去れていないことを踏まえ、ASF と SRIA は、そのイメージを払しょくし国際社会が正確にインドの改善の実態を理解し得るよう、あらゆる必要な行動を共に行っていくことに同意した。

10 年以上続く世界の高い解撤需要に対応するため、環境にやさしい安全なリサイクル手段

を行う持続的な解撤能力を確保するため、ASF は、主要解撤国の解撤事業者との対話を行っていくと同時に、リサイクルヤードの訪問を続けていく。

以上

注 1：添付 ASF Position Paper ご参照



ASIAN SHIPOWNERS' FORUM

10 Anson Road
#16-18, International Plaza,
Singapore 079903
Tel: (65) 6325 4737 Fax: (65) 6325 4451
General Email: information@asf.com.sg
Website: www.asianshipowners.org

2015年5月19日、韓国・濟州島

(試訳)

シップリサイクリングに関するASFポジション・ペーパー 第24回ASF総会で採択

安全で地球環境にやさしく燃費効率に優れたエコシップへの円滑な代替を確保するため、アジア船主フォーラム(ASF)は、複数国における環境適合ヤードの処理能力が今後も見込まれる世界的な高水準の解撤需要に対応できるよう整備されることが必要と確信する。環境適合ヤードが特定国に限定されることは、解撤待ちの長期滞船、市場から退出すべき老齢船の解撤遅延、最寄りの解撤国に比べ遠距離航海に伴う燃料油消費の大幅な増加などの結果をもたらすこととなり、世界環境・経済にとって好ましいものではない。

ASFの各論点に対するスタンスは以下の通り。

「2009年の船舶の安全かつ環境上適正な再生利用のための香港国際条約」(以下「香港条約」)に対するスタンス

ASFは、世界中のリサイクル・ヤードの(労働環境・環境保護の)改善に向けた最終的な解決のためには、いかなる地域規制も解撤主要国の地形的条件を踏まえてリサイクル手法の慣行を考慮した上で実現可能な改善を示すものでなければならない。よって、各国政府・船主・ヤード業者および造船会社等が国際海事機関(IMO)の場で様々な観点から検討・採択した香港条約(の発効)こそリサイクル時の労働安全および環境保護を改善する現実的な手段として唯一かつ最良、最終的な解決策である。ASFは引き続き各国政府に対して香港条約の早期批准を求めていく。

EUシップリサイクル規則(Regulation 1257/2013)に対するスタンス

EU規則は香港条約よりも厳しい要件をヤード業者に課すことによって南アジアで一般的な手法による解撤を実質的に禁止しようとしている。ASFは同条約の趣旨をEU規則が阻害する限り、デファクト・スタンダードとなることは適当ではないと認識する。また、エコシ

ップへの円滑な代替を確保するため、ASFは、南アジアが世界の船舶解撤量の70%を占めている事実に鑑み、条約に適合する安全かつ環境に優しいリサイクル・ヤードに向けてヤード業者の意欲を高め、施設を改善していくことが現実的であることを強く主張する。

南アジアで一般的な解撤手法に対するスタンス

時宜にかなった安定的かつ経済的なリサイクルを実施するためには、複数国において十分なリサイクル処理能力を有する環境適合ヤードの確保が必要であるが、そのためには各ヤードをリサイクル手法のみで評価するのではなく、安全・環境保護に関する要件が満たされているか否かを個別に判断することが肝要である。地理的制約から特定のリサイクル手法を用いざるを得ない南アジアにおいて、一部先進ヤードは第三者機関の適切な指導のもと、香港条約の安全・環境要件を満たす水準にまで改善されている。ASFは、ヤード改善状況の注視やヤード業者との定期的な対話等によって、先進ヤードに続いて他のヤードも同水準まで改善されるよう促していくことが必要と確信する。

リサイクル・ヤード業者を選定するにあたり、船社が引き続き第三者機関による認証等を勘案しつつ、安全かつ環境対策を含めたリサイクル過程を個々に評価・判断していくことを推奨する。
